The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 懐徳堂関係研究論考目録 |
| Author(s) | 釜田, 啓市 |
| Citation | 中国研究集刊. 1997, 20, p. 1-24 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/60757 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 懐徳堂関係研究論考目録

懐徳堂とは、江戸中期以降、大阪の学界の中心となった学問所である。中井氏を中心とした懐徳堂は、富永仲基・山片蟠桃をはじめとする多くの逸材を輩出し、近世大阪に多大なる影響を及ぼした。

明治二年、この江戸懐徳堂は廃校となったが、大正二年に財団法人懐徳堂記念会を設立、大正五年に校舎を再建、そして、西村時彦（天囚・碩園）のよびかけに応じた京都の中国研究者達、即ち、内藤湖南・狩野直喜・武内義雄といった中国学の先駆者を講師に迎え、以降、重建懐徳堂時代となった。

しかし、昭和二十年、戦災により、建物は焼失した。ただ、書庫は焼け残ったため、重建懐徳堂時代に収集した書籍は、ほとんど無事であった。けれども、戦後の経済的事情や人的不足などの理由で、懐徳堂記念会による運営は困難となった。折しも、大阪大学が法文学部を創設することとなったので、懐徳堂記念会が保管する書籍の寄贈を受け、懐徳堂文庫を名付けて、大阪大学が蔵有することとなり、今日に至っている。その目録『懐徳堂文庫図書目録』が刊行されている。なお、重建懐徳堂で行われていた諸講座は、大阪大学に引き継がれた。その後、懐徳堂・友の会の設置など、様々な努力のあと、平成九年四月より、懐徳堂記念会が、友の会を一体化し、新しい運営が行われることとなった。

懐徳堂の歴史的意義は大きく、多くの論考が発表されてきた。本稿は、それら既発表の論考を、発表年の順に配列した。ただし、雑誌に発表後、数本の論考と共に、本にまとめられたり、或いは、改訂等が加えられ別の雑誌に再発表されたりしているものもある。

また、本稿は懐徳堂記念会編集発行の雑誌『懐徳』に発表された論考のうち、五十号までは収めていない。『懐徳』五十五号に、五十号までの論考目録が作られているからである。ただし、五十一号以後、現在に至るまでの論考は、本稿に収めている。

---

ここに挙げた論考のすべてに、番号が付してある。その番号の前半二桁は、西暦年号の下二桁である。番号の後半二桁は同年内発表物について、整理上、付した番号である。番号の後に付してある「＊」は、釜田啓市が実見していないものである。( )内の番号は、その論考の文献提要が掲載されている『懐徳』の号数である。

この論考は、釜田啓市を中心に、南篤宜・佐野大介・井上了・西ノ首公應の多大なる協力を得、また、竹腰礼子氏の貴重なご意見をいただき、完成したものである。

釜田啓市

0801(52)「中井竹山の草茅危言における経済学説」　松崎 寿　(『国民経済雑誌』5-5　p124 ～ 131　神戸商業大学商業研究所　明治 41 年)

2301　「富永仲基」　吉田鋭雄・稲東猛　(『池田人物誌』上　p178 ～ 225　太陽日報社　大正 12 年)

2501　『懐徳堂考』　西村天囚　(大正 14 年)

2502　「浪華の儒者五井蘭洲 ── 特にその徂徠学批判について ──」　三木正太郎　(『芸文』1 ～ 3　文友館　)

2503*　「竹山先生の経済思想」　本庄栄治郎　(『懐徳堂文科学術講演集』1　大正 14 年)

2701*　「懐徳堂の学風」　岩橋遵成　(『近世日本儒学史』　昭和２年)

3501*　「中井甃庵記述「五孝子伝」」　今井貫一　(『上方』60　昭和 10 年)

3502　「中井竹山集解題」　菅野和太郎　(『中井竹山集』　p3 ～ 85　誠文堂新光社　昭和 10 年)

3601(55)「徳川後期の法律思想 ── 中井履軒の刑事判決批評論に現はれたる法律思想史の一齣 ──」細川亀市(『思想』167　p53 (773) ～ 64 (784)　岩波書店　昭和 11 年)

3801*　「富永謙斎の漢学」　石浜純太郎　(『泊園』30　昭和 13 年)

3901*　「懐徳堂に於ける二大天才」　吉田鋭雄・講　(『大阪漢学大会研究報告』　昭和 14 年)

3902　「懐徳堂の経学思想」　平重道　(『文化』6-8　p643 ～ 664　東北帝国大学文学会　昭和 14 年)

3903　「中井履軒」　安井小太郎　(『日本儒学史』　p208 ～ 210　富山房　昭和 14 年)

3904(59)「大阪の儒学」　藤沢章次郎　(『徳川公継宗七十年祝賀記念　近世日本の儒学』　p789 ～ 813　岩波書店　昭和 14 年)

4001　『富永仲基』　石浜純太郎　（創元社　昭和 15 年）

4101　「懐徳堂学派の経済思想」　田辺元生　（『経済史研究』26-4 p16(274)～ 44(302)　日本経済史研究所　昭和 16 年）

4202　「大阪の漢学」　石浜純太郎　（『浪華儒林伝』　p1 ～ 25 全国書房　昭和 17 年）

4203　「富永謙斉」　石浜純太郎　（『浪華儒林伝』　p83 ～ 111 全国書房　昭和 17 年）

4301　「日本の儒教」　武内義雄　（『易と中庸の研究』　p308 ～ 328　岩波書店　昭和 18 年）

4302*　『中井竹山と草茅危言』　稲垣国三郎　大正洋行　（昭和 18 年）

4303　「懐徳堂建立の歴史的意義」　有働賢造　（『江戸時代と大阪』　p1 ～ 44　大阪宝文館　昭和 18 年）

4304(60)「中井履軒と北辺問題」　有働賢造　（『江戸時代と大阪』　p46 ～ 85　大阪宝文館　昭和 18 年）

4401　『山片蟠桃』　亀田次郎　（全国書房　昭和 18 年）

4402　「寛政の改革と中井竹山」　菅野和太郎　（本庄栄治郎編『近世日本の三大改革』　p135 ～ 160　龍吟社　昭和 19 年）

4403*　「懐徳堂と大阪の儒学」　武内義雄　（『大阪の先賢と史蹟』6　大阪市役所　昭和 19 年）

4404　『先哲の学問』　内藤湖南　（弘文堂　昭和 21 年）

4901*　「懐徳学派の経済道徳思想」　東晋太郎　（『経済学論究』第三巻　一橋大学　昭和 24 年）

4902*　「山片蟠桃についての覚書」　林基　（『文学』25）

5101　「山片蟠桃の研究（一）」　有坂隆道・末中哲夫　（『ヒストリア』1　p56(58)～ 76(78)　大阪歴史学会　昭和 26 年）

5102　「山片蟠桃の研究（二）」　有坂隆道・末中哲夫　（『ヒストリア』2　p66(158)～ 82(174)　大阪歴史学会　昭和 26 年）

5201 「山片蟠桃の研究（三）」　有坂隆道・末中哲夫　（『ヒストリア』３　p63(247)～ 86(270)　大阪歴史学会　昭和 27 年）

5202 「山片蟠桃の研究（四）」　有坂隆道・末中哲夫　（『ヒストリア』４　p63(343)～ 77(357)　大阪歴史学会　昭和 27 年）

5301 「山片蟠桃の研究（五）」　有坂隆道・末中哲夫　（『ヒストリア』６　p55(567)～ 64(576)　大阪歴史学会　昭和 28 年）

5302 「山片蟠桃の研究（六）」　有坂隆道・末中哲夫　（『ヒストリア』７　p58(666)～ 77(685)　大阪歴史学会　昭和 28 年）

5303 『懐徳堂の過去と現在』　（大阪大学　昭和 28 年（1953））

5401 「山片蟠桃の研究（終）」　有坂隆道・末中哲夫　（『ヒストリア』９　p66(862)～ 85(881)　大阪歴史学会　昭和 29 年）

5402 「一家朱学の一系流」　長寿吉　（『東京女子大学論集』５-１　p83 ～ 98　昭和 29 年）

5403 「懐徳堂の和学」　小島吉雄　（『語文』10　p1 ～ 6　大阪大学国文学研究室　昭和 29 年）

5404 「古今通について」　宇佐美喜三八　（『語文』10　p7 ～ 18　大阪大学国文学研究室　昭和 29 年）

5405 「勢語通について」　八木毅　（『語文』10　p19 ～ 31　大阪大学国文学研究室　昭和 29 年）

5406 「源語提要・源語詁について」　田中裕　（『語文』10　p32 ～ 39　大阪大学国文学研究室　昭和 29 年）

5407 「懐徳堂の和学書目並解説」　八木毅　（『語文』10　p40 ～ 45　大阪大学国文学研究室　昭和 29 年）

5408 「山片蟠桃の唯物論と歴史観」　ねずまさし　（『思想』356　p95 ～ 242　岩波書店　昭和 29 年）

5601(54)「大阪町人思想史の一齣 ── 学問意識と身分意識 ── 」竹安繁治　『ヒストリア』15　p45(1603)～ 53(1611)　大阪歴史学会　昭和 31 年)

5901(52)「中井甃庵論」　大月明　(『人文研究』10-10　p32(1024)～ 50(1042)　大阪市立大学文学部　昭和 34 年)

6001　「『中井甃庵論』補訂」　大月明　(『人文研究』11-9　p82(914)～ 84(916)　大阪市立大学文学部　昭和 35 年)

6002　「五井持軒の学問と思想に関する若干の考察」　大月明　(『ヒストリア』28　p45(2659)～ 56(2670)　大阪歴史学会　昭和 35 年)

6201　「五井蘭洲と山崎蘭洲」　羽賀与七郎　(『日本歴史』166　p87 ～ 100　日本歴史学会　昭和 37 年)

6301*　「町人五同志」　(『いまに生きる　なにわの人々』　朝日新聞社編刊　昭和 38 年)

6501(55)「中井竹山と細合半斎」　神田喜一郎　(『日本における中国文学』　p106 ～ 112　二玄社　昭和 40 年)

6502　「鳳潭余話」　神田喜一郎　(『図書』242　p54 ～ 59　岩波書店　昭和 40 年)

6503*　「近世的合理論の展開 ── 懐徳堂の思想をめぐって」　師岡佑行　(奈良本辰也編『近世日本思想史研究』　河出書房　昭和 40 年)

6601(55)「中井履軒」　相良亨　(『近世の儒教思想』　p200 ～ 206　塙書房　昭和 41 年)

6602　「翁の文（解説）」　水田紀久　(『近世思想家文集』　日本古典文学大系 97　岩波書店　昭和 41 年)

6701　「中井竹山の日本史研究について」　藤直幹　(『武家時代の社会と精神』　p572 ～ 586　創元社　昭和 42 年)

6801　「大阪学校懐徳書院最後の名教授並河華翁」　羽倉敬尚　(『東洋文化』復刊 17　p64 ～ 68　無窮会　昭和 43 年)

6802　「懐徳堂の設立」　中野三敏　(『中国文化叢書 9　日本漢学』　p38 ～ 39　大修館書店　昭和 43 年)

6901(53)「懐徳堂学の発展（Ⅰ）」　平重道　（『宮城教育大学紀要』3　p81(200)～106(175)　昭和44年）

6902(53)「中井竹山と「東征稿」」　田中佩刀　（『明治大学教養論集』51　p17～51　昭和44年）

6903　「懐徳堂 ── 中井甃庵」　師岡佑行　（奈良本辰也編『日本の私塾』　p250～267　昭和44年）

6904　「円珠庵と懐徳堂」　藤本篤　（『大阪府の歴史』　p201～204　山川出版社　昭和44年）

6905　「儒学と国学 ── 富永仲基の位置」　梅谷文夫　（『講座日本文学』7　p177～201　三省堂　昭和44年）

7001　「中井竹山の蝦夷開業論」　久保田恭兵　（『函館大学北海道産業開発研究所紀要』2-3　p78～79　昭和45年）

7002(54)「懐徳堂学派の経済思想 ── とくに中井竹山と山片蟠桃の経済思想について ──」　井上実　（『史泉』41　p64～79　関西大学史学会　昭和45年）

7003　「大阪の洋学」　有坂隆道　（『泊園』9　p1～18　泊園記念会　昭和45年）

7101(53)「懐徳堂学の発展（Ⅱ）」　平重道　（『宮城教育大学紀要』5　p93(228)～116(205)　昭和46年）

7102(62)「五井蘭洲について」　大月明　（『人文研究』22　p25(229)～36(240)　大阪市立大学文学部　昭和46年）

7103(54)「懐徳堂学創立のころと官許初講義」　藤井定義　（『歴史研究』13　p16～32　大阪府立大学　昭和46年）

7104　「『出定後語』の所謂享和二年再刊本について」　梅谷文夫　（『一橋論叢』66-3　p285(51)～290(56)　昭和46年）

7105　『山片蟠桃の研究「夢の代」篇』　末中哲夫　（清文堂　昭和46年）

7106　「昔昔春秋考」　森銑三　（『森銑三著作集』11　p367～371　中央公論社　昭和46年）

7201(56)「中井竹山について」　大月明　(『人文研究』23　p44(772)～54(782)　大阪市立大学文学部　昭和47年)

7202(58)「邦儒の楚辞研究について」　竹治貞夫　(『徳島大学学芸紀要（人文科学)』22　p13～31　昭和47年)

7203　「古義堂と懐徳堂」　田中佩刀　(『明治大学教養論集（日本文学)』75　p23～40　昭和47年)

7204　「懐徳堂、一名大坂学問所のこと」　水田紀久　(『近世後期儒家集』　日本思想史体系 47　月報 21　岩波書店　昭和47年)

7205　「中井竹山（解題)」　(『近世後期儒家集』　日本思想史体系47　岩波書店　昭和47年)

7206*　「山片蟠桃と愛日文庫目録」　宮内徳雄　『谷山茂教授退職記念国語国文学論集』　昭和47年)

7301　『大阪の学問と教育』　(毎日放送文化双書 10　昭和 48年)

7302　「「出定後語」と「夢の代」」　神田喜一郎　(『富永仲基　山片蟠桃』　日本思想体系 43　月報 35　p1～3　岩波書店　昭和48年)

7303　「富永仲基と山片蟠桃 ── その懐徳堂との関係など ──」　水田紀久　(『富永仲基　山片蟠桃』　p645～652　日本思想体系43　岩波書店　昭和48年)

7304　「『出定後語』と富永仲基の思想史研究法」　水田紀久　(『富永仲基　山片蟠桃』　p653～684　日本思想体系 43　岩波書店　昭和48年)

7305　「『出定後語』の版本」　梅谷文夫　(『富永仲基　山片蟠桃』　p685～692　日本思想体系 43　岩波書店　昭和 48年)

7306　「山片蟠桃と『夢の代』」　有坂隆造　(『富永仲基　山片蟠桃』　p693～728　日本思想体系43　岩波書店　昭和48年)

7401　「富永仲基第三書幹 ── 岡白駒宛て ──」　水田紀久　(『混沌〈大阪芸文研究〉』1　p8～12　混沌会　昭和 49 年)

7402　「富永仲基論 ── 『翁の文』をめぐって ── 」　梅谷文夫　(『国語と国文学』51 － 10　p118 ～ 125　東京大学国語国文学会　昭和 49 年)

7403　「富永仲基の人文主義的精神」　中村元　(『現代仏教名著全集』8　p346 ～ 402　隆文館　昭和 49 年)

7404*　「富永仲基の所謂〈五類〉について」　梅谷文夫　(『言語文化』10　一橋大学語学研究室　昭和 49 年)

7501(58)「『昔昔春秋』と中井履軒」　新田大作　(『実践女子大学文学紀要』17　p1 ～ 23　昭和 50 年)

7502(63)「五井蘭洲の文学観」　中村幸彦　(『近世文芸思潮攷』　p211 ～ 228　岩波書店　昭和 50 年)

7601　「山片蟠桃論」　末中哲夫　(『季刊 日本思想史』2　p75 ～ 84　日本思想史懇話会　昭和 51 年)

7602　『山片蟠桃の研究「著作篇」』　末中哲夫　(清文堂　昭和 51 年)

7603　「山片蟠桃の鬼神観」　宮内徳雄　(『中国哲学史の展望と模索』　p971 ～ 988　創文社　昭和 51 年)

7604(59)「懐徳堂の利の思想」　藤井定義　(『大阪市史紀要』33　昭和 51 年)

7605*　『懐徳堂と経済思想』　藤井定義　(大阪府立大学経済学部　昭和 51 年)

7606　『懐徳堂文庫図書目録』　(大阪大学文学部　昭和 51 年)

7701　「江戸時代における貨幣品位論 ── 山片蟠桃と草間直方 ── 」　藤井定義　(『経済研究』22 － 2　p1 (124) ～ 18 (107)　大阪府立大学経済学部　昭和 52 年)

7702　「山片蟠桃の太陽と無鬼の思想」　柳沢 南　(『倫理思想研究』2　p129 ～ 138　筑波大学倫理思想研究会　昭和 52 年)

7703　「〈偏〉と〈泛〉 ── 富永仲基の〈五類〉について ── 」　梅谷文夫　(『一橋論叢』77-3　p301(61)～ 305(65)　昭和 52 年)

7704* 「懐徳堂の教育」 井上明大 (『日本教育学会 第 36 回大会発表要旨集』 昭和 52 年)

7705* 「近世合理論の展開 ── 懐徳堂の思想」 師岡祐行 (『近世日本思想史研究』 昭和 52 年)

7801 「蟠桃と儒教」 柳沢南 (『倫理思想研究』 3 p71 ～ 82 筑波大学倫理思想研究会 昭和 53 年)

7802(64) 「石田梅岩の心学と懐徳堂学派 ── 利の思想の相違を中心に ──」 藤井定義 (『歴史研究』 19 p33 ～ 43 大阪府立大学 昭和 53 年)

7803 「富永仲基研究の近況」 水田紀久 (『泊園』 17 p16 ～ 29 泊園記念会 昭和 53 年)

7901 「懐徳堂学派の人々 ── 大坂実学の主張 ──」 末中哲夫 (『江戸の思想家たち』 (下) p74 ～ 96 研究社出版 昭和 54 年)

7902 「懐徳堂と明誠舎と住友」 宮本又次 (『大阪文化史論』 p60 ～ 81 文献出版 昭和 54 年)

8001 『中井竹山・中井履軒』 加地伸行 他 (「叢書 日本の思想家」 24 明徳出版社 昭和 55 年)

8002 「中井甃庵と犬甘政孝 ── 『犬甘文書』からみた二人の親交 ──」 庄 洋二 (『信濃』 32-8 p33(843)～ 45(855) 信濃史学会 昭和 55 年)

8003 「並河寒泉の『居諸録』について」 島居清 (『ビブリア』 75 p77 ～ 85 天理図書館 昭和 55 年)

8004 『大阪の学問－懐徳堂・適塾』 (大阪大学 昭和 55 年)

8005 「懐徳堂と大阪の町人たち」 宮本又次 (『大阪経済文化史談義』 p146 ～ 158 文献出版 昭和 55 年)

8006 「蟠桃と王充」 柳沢南 (『群馬工業高等専門学校研究報告』 14 p13 ～ 26 昭和 55 年)

8007 (60) 「履軒先生の経学」 狩野直喜 (『読書纂餘』 p402 ～ 408 みすず書房 昭和 55 年)

8101(59)「懐徳堂の人々」　足立巻一　(『大阪春秋』28　p28～31　昭和56年)

8102(56)「懐徳堂の経済思想 ── 草間直方『三貨図彙』について ──」　作道洋太郎　(『大阪の歴史』4　p1～15　大阪市史編纂所　昭和56年)

8103　「蟠桃と荀子」　柳沢南　(『倫理思想研究』6　p99～110　筑波大学倫理思想研究会　昭和56年)

8104(62)「中井竹山と中井履軒の経済思想」　藤井定義　(『経済研究』27-1　p 1 (220)～ 26(195)　大阪府立大学経済学部　昭和56年)

8105　「近世中期大阪の学問と教育 ── 懐徳堂を中心に ──」　山中浩之　(『ヒストリア』90　p41 ～ 45　大阪歴史学会　昭和56年)

8106　「近世大阪町人学の系譜と特質 ── 懐徳堂学の再興 ──」　作道洋太郎　(『大阪大学史紀要』1　p50～p59　昭和56年)

8107　「山片蟠桃と蘭州・南嶺・秋成・履軒たち ── 大阪国学者の一系譜 ──」　宮内徳雄　(『大阪青山短期大学研究紀要』9　p51～64　昭和56年)

8108*　「『出定後語』雕題」　水田紀久　(『関西大学東西学術研究所創立三十周年記念論文集』　昭和56年)

8201(56)「懐徳堂における儒学と町人」　梅渓昇　(『大阪春秋』31　p33～39　大阪春秋社　昭和57年)

8202　「懐徳堂と大阪町人の学問」　作道洋太郎　(『大阪春秋』31　p44～47　大阪春秋社　昭和57年)

8203　「呉江社友富南関－富永仲基の賀詩－」　水田紀久　(『文芸論叢』19　p30 ～ 35　大谷大学文芸学会　昭和 57 年)

8204　『町人社会の学芸と懐徳堂』　宮本又次　(文献出版　昭和57年)

8205　「三浦梅園と山片蟠桃」　高橋正和　(『日本思想史学』14　p61～68　日本思想史学会　昭和57年)

8206　「重建懐徳堂と経済人」　宮本又次　(『大阪大学経済学』32-1 p1 ～ 19　昭和 57 年)

8207　「懐徳堂文庫」(上)　山田信夫　(『同朋』54　p15 ～ 17 同朋舎　昭和 57 年)

8208*　「山片蟠桃の大宇宙論について」　有坂隆道　(『日本洋学史の研究』6　昭和 57 年)

8209　「懐徳堂物語（一)」　加地伸行　(『懐徳』51　p4 ～ 8 懐徳堂記念会　昭和 57 年)

8210　「新出の新造学校観光院図について」　梅渓昇　(『懐徳』51 p33 ～ 39　懐徳堂記念会　昭和 57 年)

8301　「懐徳堂文庫」(下)　山田信夫　(『同胞』55　p12 ～ 14 同朋舎　昭和 58 年)

8302　「大阪町人学の流れ」　中村浩　(『歴史評論』393　p111 ～ 117　歴史科学協議会　昭和 58 年)

8303(61)「三輪執斎の学風と懐徳堂」　宮本又次　(『季刊日本思想史』20　p3 ～ 19　日本思想史懇話会　昭和 58 年)

8304(57)「町人学問所としての「公」」　脇田修　(『季刊日本思想史』20　p20 ～ 31　日本思想史懇話会　昭和 58 年)

8305(57)「懐徳堂の歴史観」　時野谷勝　(『季刊日本思想史』20 p32 ～ 45　日本思想史懇話会　昭和 58 年)

8306(58)「懐徳堂の学問と大坂町人道」　作道洋太郎　(『季刊日本思想史』20　p46 ～ 57　日本思想史懇話会　昭和 58 年)

8307(57)「懐徳堂と西村時彦（天囚)」　梅渓昇　(『季刊日本思想史』20　p58 ～ 74　日本思想史懇話会　昭和 58 年)

8308(61)「大阪における実学の伝統 ── 懐徳堂と適塾 ──」　作道洋太郎　(『学士会会報』759　昭和 58 年)

8309　「富永仲基」　谷沢永一・筒井之隆　(『なにわ町人学者伝』　p7 ～ 17　潮出版社　昭和 58 年)

8310　「山片蟠桃」　谷沢永一・筒井之隆　(『なにわ町人学者伝』　p49 ～ 59　潮出版社　昭和 58 年)

8311　「懐徳堂物語（二）」　加地伸行　（『懐徳』52　p6 ～ 15　懐徳堂記念会　昭和 58 年）

8312　「懐徳風雅 ── 竹山の古体四言詩 ── 」　水田紀久　（『懐徳』52　p16 ～ 28　懐徳堂記念会　昭和 58 年）

8313　「頼春水在坂時代の中井竹山との交遊」　頼祺一　（『懐徳』52　p29 ～ 39　懐徳堂記念会　昭和 58 年）

8314　「資料報告　中井履軒手稿『辨妄』」　小堀一正・山中浩之　（『懐徳』52　p40 ～ 41　懐徳堂記念会　昭和 58 年）

8401(61)「中井竹山の歴史観 ── その排仏論を中心として ── 」　小堀一正　（『日本近代の成立と展開』　p57 ～ 76　思文閣出版　昭和 59 年）

8402　『山片蟠桃 ── 『夢の代』と生涯 ── 』　宮内徳雄　（創元社　昭和 59 年）

8403　『富永仲基研究』　梅谷文夫・水田紀久　（和泉書院　昭和 59 年）

8404*　『富永仲基・石田梅岩』　加藤周一編　（日本の名著 18・中公バックス　中央公論社　昭和 59 年）

8405　「懐徳堂物語（三）」　山中浩之　（『懐徳』53　p5 ～ 15　懐徳堂記念会　昭和 59 年）

8406　「『古今通』の刪補について」　多治比郁夫　（『懐徳』53　p16 ～ 26　懐徳堂記念会　昭和 59 年）

8407　「俣野川の活動と中井竹山」　竹下喜久男　（『懐徳』53　p27 ～ 37　懐徳堂記念会　昭和 59 年）

8408　「懐徳堂認識論と十八世紀における批判的ヴィジョンの創造」　テツオ・ナジタ　（『懐徳』53　p38 ～ 51　懐徳堂記念会　昭和 59 年）

8409　「資料報告「甃庵先生母堂書簡」」　山中浩之・小堀一正　（『懐徳』53　p76 ～ 85　懐徳堂記念会　昭和 59 年）

8410　「重建懐徳堂と私」　石浜恒夫　（『懐徳』53　p89 ～ 97　懐徳堂記念会　昭和 59 年）

8411　「懐徳堂あれこれ」　宇野新逸・宇野要次　(『懐徳』53 p98 ～ 100　懐徳堂記念会　昭和 59 年)

8412　「昭和初期に通った懐徳堂」　杉村光子　(『懐徳』53　p101 ～ 103　懐徳堂記念会　昭和 59 年)

8501(58)「中井履軒の中庸解釈の特質」　藤本雅彦　(『日本思想史学』17　p30 ～ 40　日本思想史学会　昭和 60 年)

8502　「『出定後語』標註」　水田紀久　(『文芸論叢』24　p3 ～ 16　大谷大学文芸学会　昭和 60 年)

8503　「国語研究者の立場から見た山片蟠桃研究小史」　宮内徳雄　(『大阪青山短大国文』1　p78 ～ 92　昭和 60 年)

8504　「重々建懐徳堂の提案」　大久保昌一　(『懐徳』54　p9 ～ 11　懐徳堂記念会　昭和 60 年)

8505　「懐徳堂の人々（一）三宅石庵」　岸田知子　(『懐徳』54 p12 ～ 18　懐徳堂記念会　昭和 60 年)

8506　「陰陽の鬼神と祭祀の鬼神 ── 無鬼論の特質をめぐって ──」　子安宣邦　(『懐徳』54　p19 ～ 28　懐徳堂記念会　昭和 60 年)

8507　「山片蟠桃と福沢諭吉 ── 「天は人の上に人を造らず」考」(『懐徳』54　p29 ～ 39　懐徳堂記念会　昭和 60 年)

8508　「針尾島の天囚」　町田三郎　(『懐徳』54　p40 ～ 44　懐徳堂記念会　昭和 60 年)

8509　「懐徳堂に寄与した尼崎屋一族」　肥田晧三　(『懐徳』54 p45 ～ 50　懐徳堂記念会　昭和 60 年)

8510　「資料報告「中井竹山葬儀記録」」　山中浩之・小堀一正 (『懐徳』54　p84 ～ 112　懐徳堂記念会　昭和 60 年)

8601　「懐徳堂文庫所蔵漢籍研究の予備調査」　加地伸行　(『文部省特定研究（昭和 60 年度）── 大阪における産業都市文化の発達に関する総合的研究 ──』　p3 ～ 11　大阪大学　昭和 61 年)

8602　「懐徳堂関係絵画遺品と大坂画壇」　武田恒夫　(『文部

省特定研究（昭和 60 年度）── 大阪における産業都市文化の発達に関する総合的研究 ──』 p26 ～ 34 大阪大学 昭和 61 年）

8603 「富永仲基と涅槃経」 水田紀久 （『混沌〈大阪芸文研究〉』10 p5 ～ 9 混沌会 昭和 61 年）

8604 「山片蟠桃と福沢諭吉の国語・国字論」 宮内徳雄 （『大阪青山短大国文』2 p43 ～ 49 昭和 61 年）

8605 『懐徳堂 ── 近世大阪の学校』 （大阪市立博物館 特別展覧会パンフレット 昭和 61 年）

8606 『近世浪華学芸史論』 水田紀久 （中尾松泉堂書店 昭和 61 年）

8607 「懐徳堂の人々（二）中井甃庵」 山中浩之 （『懐徳』55 p9 ～ 23 懐徳堂記念会 昭和 61 年）

8608 「含翠堂と懐徳堂」 津田秀夫 （『懐徳』55 p24 ～ 34 懐徳堂記念会 昭和 61 年）

8609 「『懐徳堂展覧会目録』の課題」 上田穣 （『懐徳』55 p35 ～ 48 懐徳堂記念会 昭和 61 年）

8610 「懐徳堂の書学」 岸田知子 （『懐徳』55 p49 ～ 56 懐徳堂記念会 昭和 61 年）

8611 「資料報告「頼梅颸書簡」」 （『懐徳』55 p74 ～ 77 懐徳堂記念会 昭和 61 年）

8701 「佐藤一斎の思想と教育 Ⅳ」 山縣明人 （『政治経済史学』250 p18 ～ 42 日本政治経済史学研究所 昭和 62 年）

8702 「富永仲基的徂徠批判論」 陶徳民 （『中国古典研究』32 p62 ～ 70 早稲田大学文学部 昭和 62 年）

8703(64) 「山片蟠桃の古代史観」 有坂隆道 （『横田健一先生古稀記念 文化史論叢』下 p654 ～ 666 創元社 昭和 62 年）

8704 「大坂の学問・思想及び出版」 水田紀久・多治比郁夫 （『大阪府史』6 p713 ～ 796 大阪府史編集専門委員会 昭和 62 年）

8705(60)「富永仲基と非仏典語 ── その漢学的素養と思考の源泉 ──」　水田紀久　(『文芸論叢』28　p11 ～ 20　大谷大学文芸学会　昭和 62 年)

8706　「大阪大学附属図書館懐徳堂文庫蔵　中井竹山手稿『奠陰集』解題」　水田紀久 (『近世儒家文集集成』8　p10 ～ 41　ペリカン社　昭和 62 年)

8707　「中井履軒とその弟子 ── その思想と教養をめぐって ──」　井上明大　(『大阪女子学園短期大学紀要』31　p1 ～ 10　昭和 62 年)

8708　「近世後期史学史と『逸史』」　高橋章則　(『日本思想史学』19　p50 ～ 65　日本思想史学会　昭和 62 年)

8709　「大阪外国語大学石浜文庫所蔵『出定後語』雕題考」　水田紀久　(『大阪の歴史』23　p1 ～ 28　昭和 62 年)

8710　「江戸期大阪町人と懐徳堂をめぐって」(1)～ (5)　伊木稔　(『公益法人』1、3、4、6、8　公益法人協会　昭和 62 年)

8711*　「大阪の捨子」　小堀一正　(『関西の文化と歴史』　昭和 62 年)

8712　「住友家と五井蘭洲と懐徳堂」　宮本又次　(『懐徳』56　p2 ～ 5　懐徳堂記念会　昭和 62 年)

8713　「懐徳堂の人々 (三) 懐徳堂の立地を支えた尼崎町界隈の町並み」　矢内昭　(『懐徳』56　p11 ～ 20　懐徳堂記念会　昭和 62 年)

8714　「富永仲基の学問的態度 ── 姉崎正治著『仏教聖典史論』を読んで ──」　森東吾　(『懐徳』56　p21 ～ 30　懐徳堂記念会　昭和 62 年)

8715　「中井竹山の公私観」　藤本雅彦　(『懐徳』56　p31 ～ 43　懐徳堂記念会　昭和 62 年)

8716　「無鬼、またはフィクションとしての鬼神」　小堀一正　(『懐徳』56　p44 ～ 57　懐徳堂記念会　昭和 62 年)

8717　「中井家と頼家」　頼祺一　(『懐徳』56　p58 ～ 66　懐徳堂記念会　昭和 62 年)

8718　「資料報告「土橋九郎右衛門宛伊藤東涯書簡」　(『懐徳』56 p97～99　懐徳堂記念会　昭和62年)

8801　「御文庫の『古今通』── 中井履軒の刪補本補注など ──」　多治比郁夫　(『すみのえ』26-1　p47 ～ 55　住吉大社社務所　昭和63年)

8802(63)「懐徳堂のイデオロギー ── 普遍性・生産・科学 ──」　テツオ・ナジタ　(『思想』766　p148～161　岩波書店　昭和63年)

8803(61)「懐徳堂における無鬼論の形成 ── 中井竹山の鬼神諸説の検討 ──」　陶徳民　(『思想』766　p162～181　岩波書店　昭和63年)

8804(62)「懐徳堂学派 ── 五井蘭洲と中井履軒」　田尻祐一郎　(源了圓 編『江戸の儒学』　p157～175　思文閣出版　昭和63年)

8805　「並河寒泉の社会政治観 ── 『辨怪』と『居諸録』を中心に ──」　陶徳民　(『日本思想史学』20　p83 ～ 94　日本思想史学会　昭和63年)

8806　『近世日本の儒学と洋学』　大月明　(思文閣出版　昭和63年)

8807　「江戸後期の日本儒学」　王家驊　(『日中儒学の比較』　p245～280　六興出版　昭和63年)

8808　「『非徴』解説」　岸田知子　(懐徳堂文庫復刻叢書一『非徴』　p157～160　懐徳堂・友の会　昭和63年)

8809　「懐徳堂と自然哲学」　伴忠康　(『懐徳』57　p5 ～ 10　懐徳堂記念会　昭和63年)

8810　「懐徳堂の人々（四）同志の人々 ── 懐徳堂を支えた五同志 ──」　脇田修　(『懐徳』57　p15 ～ 21　懐徳堂記念会　昭和63年)

8811　「中井履軒作、象紐の印より出発して」　大庭脩　(『懐徳』57　p22～42　懐徳堂記念会　昭和63年)

8812　「「物」と「豪傑」── 江戸後期思想についての覚書」　平石直昭　(『懐徳』57　p43～56　懐徳堂記念会　昭和63年)

8813 「和刻本『聖諭廣訓』に関する再考」 陶徳民 (『懐徳』57 p57～74 懐徳堂記念会 昭和63年)

8814 「大阪の企業家と文化振興」 作道洋太郎 (『懐徳』57 p75～83 懐徳堂記念会 昭和63年)

8815 「資料報告「中井甃庵・甃庵夫人・中井蕉園葬儀記録」」 山中浩之・小堀一正 (『懐徳』57 p103～130 懐徳堂記念会 昭和63年)

8901 「富永仲基の音楽観 ── 『楽律考』の研究 ──」 陶徳民 (『東方学』77 p85～100 東方学会 平成元年)

8902 「富永仲基と神道批判 ── 野々宮定基との関連をめぐって」 宮川康子 (『待兼山論叢(日本学篇)』23 p1～16 大阪大学文学部 平成元年)

8903 「中井竹山と佐藤一斎」 井上明大 (『大阪女子学園短期大学紀要』33 p33～38 平成元年)

8904 「懐徳堂と地理学」 矢守一彦 (『懐徳』58 p2～4 懐徳堂記念会 平成元年)

8905 「懐徳堂の人々(五)五井蘭洲」 山中浩之 (『懐徳』58 p5～20 懐徳堂記念会 平成元年)

8906 「懐徳堂文庫所蔵『史記削柿』について」 寺門日出男 (『懐徳』58 p45～52 懐徳堂記念会 平成元年)

8907 「資料報告 中井竹山・履軒書簡」 山中浩之 (『懐徳』58 p85～90 懐徳堂記念会 平成元年)

9001 「中井竹山あるいは懐徳堂の思想(1) ── 懐徳堂草創期の学問と思想について ──」 森脇善明 (『商業史研究所紀要』1 p35(182)～55(162) 大阪商業大学商業史研究所 平成2年)

9002 「十八世紀日本の「徳」の諸相 ── 大坂商人の学問所・懐徳堂 ──」 テツオ・ナジタ (『思想』787 p145～162 岩波書店 平成2年)

9003 「新たに発見された『出定後語』の異版」 梅谷文夫 (『混沌〈大阪芸文研究〉』40 p1～5 混沌会 平成2年)

9004　「反徂徠としての富永仲基 ── 論語微駁説を中心に ── 」　宮川康子　(『日本学報』9　p23 ～ 55　大阪大学文学部日本学研究室　平成２年)

9005　「近世の家康研究と『逸史』」　高橋章則　(『季刊日本思想史』36　p50 ～ 65　日本思想史懇話会　平成２年)

9006　「『史記会注考証』撰述に見られる非学問性 ── 埋もれた中井履軒撰『史記雕題』」　寺門日出男　(『中国研究集刊』日号　p(30)544 ～(39)553　大阪大学中国学会　平成２年)

9007*　「「華胥国王」履軒」　山中浩之　(懐徳堂文庫復刻叢書三『華胥国物語』　p141 ～ 151　懐徳堂・友の会　平成２年)

9008　「懐徳堂と適塾」　脇田修　(『懐徳』59　p2 ～ 4　懐徳堂記念会　平成２年)

9009　「門前の小僧の夢」　大村元宥　(『懐徳』59　p5 ～ 7　懐徳堂記念会　平成２年)

9010　「懐徳堂の人々（六）中井竹山」　小堀一正　(『懐徳』59　p8 ～ 23　懐徳堂記念会　平成２年)

9011　「「鶏肋集叙」 ── 富永仲基最後の文章 ── について」　印藤和寛　(『懐徳』59　p24 ～ 36　懐徳堂記念会　平成２年)

9012　「『日本春秋』の歴史意識」　宮川康子　(『懐徳』59　p37 ～ 50　懐徳堂記念会　平成２年)

9013　「中井履軒『百首贅々』 ── 真淵批判と景樹『百首異見』への影響 ── 」　福島理子　(『懐徳』59　p51 ～ 65　懐徳堂記念会　平成２年)

9014　「『孟子雕題』・『孟子雕題略』・『孟子逢原』の関係について」　杉山一也　(『懐徳』59　p66 ～ 75　懐徳堂記念会　平成２年)

9101　「懐徳堂思想と民衆」　宮川康子　(『日本思想史学』24　p46 ～ 58　日本思想史学会　平成３年)

9102(64)　「近世市井の歴史的言説 ── 富永仲基と『日本春秋』をめぐって ── 」　宮川康子　(『思想』809　p46 ～ 69　岩波書店　平成３年)

9103　「泊園書院と懐徳堂 ── 大坂の学問 ──」　加地伸行　(『泊園』30　p33 ～ 50　泊園記念会　平成３年)

9104　「『史記雕題』解題」　寺門日出男　(懐徳堂文庫復刻叢書四『史記雕題』上」　p272 ～ 278　懐徳堂・友の会　平成３年)

9105　「大阪天満宮御文庫所蔵『雕題』(中井履軒撰) 諸本について」　寺門日出男　(『中国研究集刊』月号　p (79) 677 ～ (83) 681　大阪大学中国学会　平成３年)

9106　「懐徳堂の人々 (七) 中井履軒」　山中浩之　(『懐徳』60　p5 ～ 17　懐徳堂記念会　平成３年)

9107　「近世大坂の文化的環境」　脇田修　(『懐徳』60　p18 ～ 24　懐徳堂記念会　平成３年)

9108　「懐徳堂親知 ── 広瀬蒙斎『有方録』抄 ──」　水田紀久　(『懐徳』60　p25 ～ 35　懐徳堂記念会　平成３年)

9109　「『戦国策雕題』(中井履軒撰) と近藤南洲と」　寺門日出男　(『懐徳』60　p36 ～ 41　懐徳堂記念会　平成３年)

9110　「中井履軒撰の『三国志雕題』と『三国志雕題草本』とについて」　矢羽野隆男　(『懐徳』60　p42 ～ 55　懐徳堂記念会　平成３年)

9111　「十八世紀後期における「解剖」の言説の位相」　松村浩二　(『懐徳』60　p56 ～ 70　懐徳堂記念会　平成３年)

9112　「加藤景範『国雅管窺』について」　管宗次　(『懐徳』60　p71 ～ 82　懐徳堂記念会　平成３年)

9113　「西村天囚と張之洞の『勧学篇』」　陶徳民　(『懐徳』60　p83 ～ 98　懐徳堂記念会　平成３年)

9114　「懐徳堂のことなど」　中尾堅一郎　(『懐徳』60　p110 ～ 112　懐徳堂記念会　平成３年)

9201　「「夢」と虚構の領域 ── 懐徳堂・中井履軒を中心に ──」　宮川康子　(『日本文学』41　p1 ～ 10　日本文学協会　平成４年)

9202　「蟠桃・篤胤の朱子〔鬼神説〕批判」　中村一基　(『岩手大学教育学部研究年報』52-1　p59(1)～ 72(14)　平成４年)

9203　『懐徳堂』　テツオ ナジタ　(岩波書店　平成４年)

9204　「《譬喩》の言語学 ── 富永仲基「三物五類」の説」　宮川康子　(『批評空間』５　p53 ～ 69　福武書店　平成４年)

9205*　「富永仲基の学問を方法 ── 著述と思想」　水田紀久　(『国史学研究』18　平成４年)

9206*　「西村天囚のこと」　町田三郎　(『九州の儒者たち』海鳥社　平成４年)

9207*　「中井竹山あるいは懐徳堂の黄金時代」　(『商業史研究所紀要』２　大阪商業大学　平成４年)

9301　「中井履軒撰『荘子雕題』諸本について」　藤居岳人　(『中国研究集刊』辰号　p(115)1017 ～(125)1027　大阪大学中国学会　平成５年)

9302　「徳川儒教における仏教批判の意義 ── 中井甃庵「喪祭私説」に即して ──」　高橋文博　(『比較思想研究』19　p178 ～ 181　比較思想学会　平成５年)

9303　「あたりまえの誠の位相 ── 富永仲基と中井履軒 ──」　宮川康子　(『思想』832　p71 ～ 105　岩波書店　平成５年)

9304　「懐徳堂重建と中井家の人々」　北崎豊二　(『大阪の歴史』40　p14 ～ 18　大阪市史編纂所　平成５年)

9305*　「景刊『懐徳堂文庫本　史記雕題』について」　戸川芳郎　(『汲古』23　平成５年)

9306　「懐徳堂の人々（八）富永仲基」　宮川康子　(『懐徳』61　p6 ～ 18　懐徳堂記念会　平成５年)

9307　「『喪祭私説』における「家礼」受容 ── 徳川儒教における仏教批判の一方向 ──」　高橋文博　(『懐徳』61　p19 ～ 31　懐徳堂記念会　平成５年)

9308　「『論語徴』のなかの「孝」」　田尻祐一郎　（『懐徳』61　p32～43　懐徳堂記念会　平成５年）

9309　「中井履軒撰『古文真宝雕題』について」　南昌弘　（『懐徳』61　p44～55　懐徳堂記念会　平成５年）

9310　「懐徳堂堂友会とそれを支えた人びと－私の思い出から」　梅渓昇　（『懐徳』61　p56～74　懐徳堂記念会　平成５年）

9401　「中井履軒と上田秋成 ── 幽鬼と無鬼の世界 ──」　宮川康子　（『論集近世文学５　共同研究　秋成とその時代』p50～68　勉誠社　平成６年）

9402　「富永仲基と黄檗宗」　塩崎幸雄　（『仏教学研究会年報』27　p79～90　駒沢大学大学院仏教学研究会　平成６年）

9403　「中井竹山あるいは懐徳堂学派の中心と周縁 ── 近世大阪町人学問所懐徳堂の中心思想あるいは思想史としての懐徳堂 ──」　森脇善明　（『商業史研究所紀要』３　p13（250）～42（221）　大阪商業大学商業史研究所　平成６年）

9404　「中井履軒撰『三国志雕題草本』正文附解説（一）── 履軒における『三国志』理解の資料として ──」　矢羽野隆男　（『四天王寺国際仏教大学文学部紀要』26　p38～49　四天王寺国際仏教大学　平成６年）

9405　『懐徳堂朱子学の研究』　陶徳民　（大阪大学出版会　平成６年）

9406　『懐徳堂 ── 浪華の学問所』　（懐徳堂記念会　平成６年）

9407　「本書底本の解題」　神林裕子・南昌宏　（懐徳堂文庫復刻叢書七『中庸雕題并中庸関係諸本』　p199～202　懐徳堂・友の会　平成６年）

9408　「仁斎の『中庸発揮』と懐徳堂学派の「中庸錯簡説」と」　神林裕子　（懐徳堂文庫復刻叢書七『中庸雕題并中庸関係諸本』　p203～208　懐徳堂・友の会　平成６年）

9409　「中井竹山『中庸断』」　藤居岳人　（懐徳堂文庫復刻叢書七『中庸雕題并中庸関係諸本』　p209～217　懐徳堂・友の会　平成６年）

9410　「大阪大学懐徳堂文庫所蔵『中庸雕題』関連諸本」　南昌宏　（懐徳堂文庫復刻叢書七『中庸雕題并中庸関係諸本』　p218 ～ 225　懐徳堂・友の会　平成６年）

9411　「中国における『中庸』の文脈解釈」　滝野邦雄　（懐徳堂文庫復刻叢書七『中庸雕題并中庸関係諸本』　p226 ～ 233　懐徳堂・友の会　平成６年）

9412　「参考（『懐徳堂書目』内の関連書籍）」　滝野邦雄　（懐徳堂文庫復刻叢書七『中庸雕題并中庸関係諸本』　p234 ～ 236　懐徳堂・友の会　平成６年）

9413　「『論語雕題』『論語雕題略』『論語逢源』各底本について」　神林裕子　（懐徳堂文庫復刻叢書九『論語雕題』　p453 ～ 462　懐徳堂・友の会　平成６年）

9414　「徳川時代における『論語』── 懐徳堂の立場」　横久保義洋　（懐徳堂文庫復刻叢書九『論語雕題』　p463 ～ 470　懐徳堂・友の会　平成６年）

9415　「富永仲基 ── 合理の精神」　中沢護人・森数男　（『日本の開明思想』　p59 ～ 94　紀伊国屋書店　平成６年）

9416　「懐徳堂の人々（九）山片蟠桃」　宮内徳雄　（『懐徳』62　p5 ～ 17　懐徳堂記念会　平成６年）

9417　「富永仲基『三器』度考の復原 ── 『楽律考』の一考察」　印藤和寛　（『懐徳』62　p18 ～ 47　懐徳堂記念会　平成６年）

9418　「中井履軒『論語逢原』の位置」　宇野田直哉　（『懐徳』62　p48 ～ 65　懐徳堂記念会　平成６年）

9419　「中井履軒『中庸』関連諸本の考察」　南昌弘　（『懐徳』62　p66 ～ 77　懐徳堂記念会　平成６年）

9420　「天人関係の語りに見る二つの朱子学 ── 浅見絅斎と五井蘭洲 ──」　樋口浩造　（『懐徳』62　p78 ～ 93　懐徳堂記念会　平成６年）

9501　「山片蟠桃のことども ── 二、三の揚げ足取り ──」　有坂隆道　（『大阪の歴史』44　p36 ～ 41　大阪市史編纂所　平成７年）

9502　「懐徳堂の人々（十）中井竹山と木村兼葭堂」　水田紀久
（『懐徳』63　p6 ～ 12　懐徳堂記念会　平成 7 年）

9601　『近世大坂と知識人社会』　小堀一正　（清文堂　平成 8 年（1996））

9602　「懐徳堂の人々（十一）蟠桃東遊」　水田紀久　（『懐徳』64　p5 ～ 11　懐徳堂記念会　平成 8 年）

9603　「杳かなる日の懐徳堂」　沢美枝　（『懐徳』64　p30 ～ 38　懐徳堂記念会　平成 8 年）

9604　「中井履軒の『論語』諸注釈書」　神林裕子　（『懐徳』64　p39 ～ 53　懐徳堂記念会　平成 8 年）